

Sakura De Prog!

プログレ(伊)、HRなどの日本未公開記事の翻訳記事, オフィシャル情報をご紹介します。無断転載・複製を禁止します。

profile



読者になる

都道府県

設定しない

自己紹介

プログレ・ミュージシャンの海外インタビュー ★姉妹ブログ
★<http://blog.goo.ne.jp/ballettobronzo> <バレットディ
ブロンゾ公式情報>

categories

[Fabio Zuffanti\(2\)](#)

[Unreal City\(1\)](#)

[Tugs\(1\)](#)

[Gran Turismo Veloce\(4\)](#)

[Unreal City\(0\)](#)

[Barock Project\(0\)](#)

[Museo Rosenbach - ムゼ
オ・ローゼンバック\(7\)](#)

[Il Rovescio della
Medaglia\(5\)](#)

[RanestRane - Official
info\(1\)](#)

[Maxophone\(2\)](#)

[Alphataurus\(2\)](#)

[The Former Life\(6\)](#)

[プログレッシブ・ロック\(32\)](#)

[HR・HM\(2\)](#)

[Japanese Rock\(2\)](#)

login

[編集画面にログイン](#)

[ブログの新規登録](#)

ニュー・トロルズUT ジャンニ・ベレーノ インタビュー[New Trolls UT - Gianni Bellenno]

2012-03-12 | [プログレッシブ・ロック](#)

Gianni Bellenno (New Trolls - UT) インタビュー

By Athos Enrile



ProG Liguria (リグリア地方の洪水被害救済チャリティー・プログレ・フェスティバル)の楽屋でGianni Bellennoにインタビューのオファーをしました。出番の後の40分ものステージのあとでしたが、疲れも見せずに快く対応してくれました。

そして約束どおり、2012年の初めに興味深いインタビューを行うことができました。

UT UNO TEMPORE - SIGNORA CAROLINA - dall'album Canti d'innocenza Canti d'esperienza

calendar

Jul,2013

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

[Prev](#) [Next](#)

recent entries

[Fabio Zuffanti's ~ズツファンティから日本の皆様へのビデオ・メッセージ](#)

[ムゼオ・ローゼンバツハ、ルポ インタビュー - Stefano 'Lupo' Galifi Interview June 2013](#)

[Fabio Zuffanti's Diary ズツファンティの日記から - Ys に寄せて](#)

[Gran Turismo Veloce ~ マッシモ・ミニ・インタビューとインタビュー続き #4](#)

[Unreal City \(アンリアルシティ\) - 恐るべきズツファンティ・チルドレン - Part 1](#)

[Castle Fusion キャッスル・フュージョン 実験的前衛の香り](#)

[TUGS \(トゥグス\) - Europe Minor - ヨーロッパ800年の歴史を、文学、演劇を音楽で誘う旅路 Part 1](#)

[Facebookページを始めました。](#)

[70年代のイタリアン・プログレと政治思想 2.](#)

[Museo Rosenbach, Alberto Moreno 最新インタビュー](#)

[>> もっと見る](#)

THE INTERVIEW

Q: ProG Liguriaから一か月経っていますが、あのフェスティバルの感想を伺えますか。

G: ライブのみならず、ニュートロルズの歴史においても、また人間として、ミュージシャンとしても、重要なフェスティバルだったよ。

70年代初期と今ではまったくアプローチが違う。当時は若さや環境のせいもあり、何か無意識に活動してたような気もするけれど、今、音楽のみならずいろいろな経験を積んだあと、特に人間として成長すると、より知恵があり、成熟した演奏ができるよ。

recent comments

[とっしー/ムゼオ・ローゼンバツハ、ルポ インタビュー - Stefano 'Lupo' Galifi Interview June 2013](#)

[rockprogresso/Gran Turismo Veloce ~ マッシモ・ミニ・インタビューとインタビュー続き #4](#)

[Tatsuro Ueda/Gran Turismo Veloce ~ マッシモ・ミニ・インタビューとインタビュー続き #4](#)

[とっしー/Unreal City \(アンリアルシティ\) - 恐るべきズツファンティ・チルドレン - Part 1](#)

[rockprogresso/Facebook](#)

ページを始めました。

raba/TUGS (トゥグス) - Europe Minor - ヨーロッパ800年の歴史を、文学、演劇を音楽で誘う旅路 Part 1

rockprogresso/Facebook ページを始めました。

とっしー/TUGS (トゥグス) - Europe Minor - ヨーロッパ800年の歴史を、文学、演劇を音楽で誘う旅路 Part 1

raba/Facebookページを始めました。

raba/Facebookページを始めました。

recent trackbacks

[ロック雑感: プログレってナニ?] Arvid "Wegg" Andersen R.I.P. (Food for Thoughts, Candy for Ears)

back numbers

[Jul,2013](#)

[Jun,2013](#)

[May,2013](#)

[Apr,2013](#)

[Mar,2013](#)

bookmarks

mobile



[URLをメールで送信](#)



goo recommends

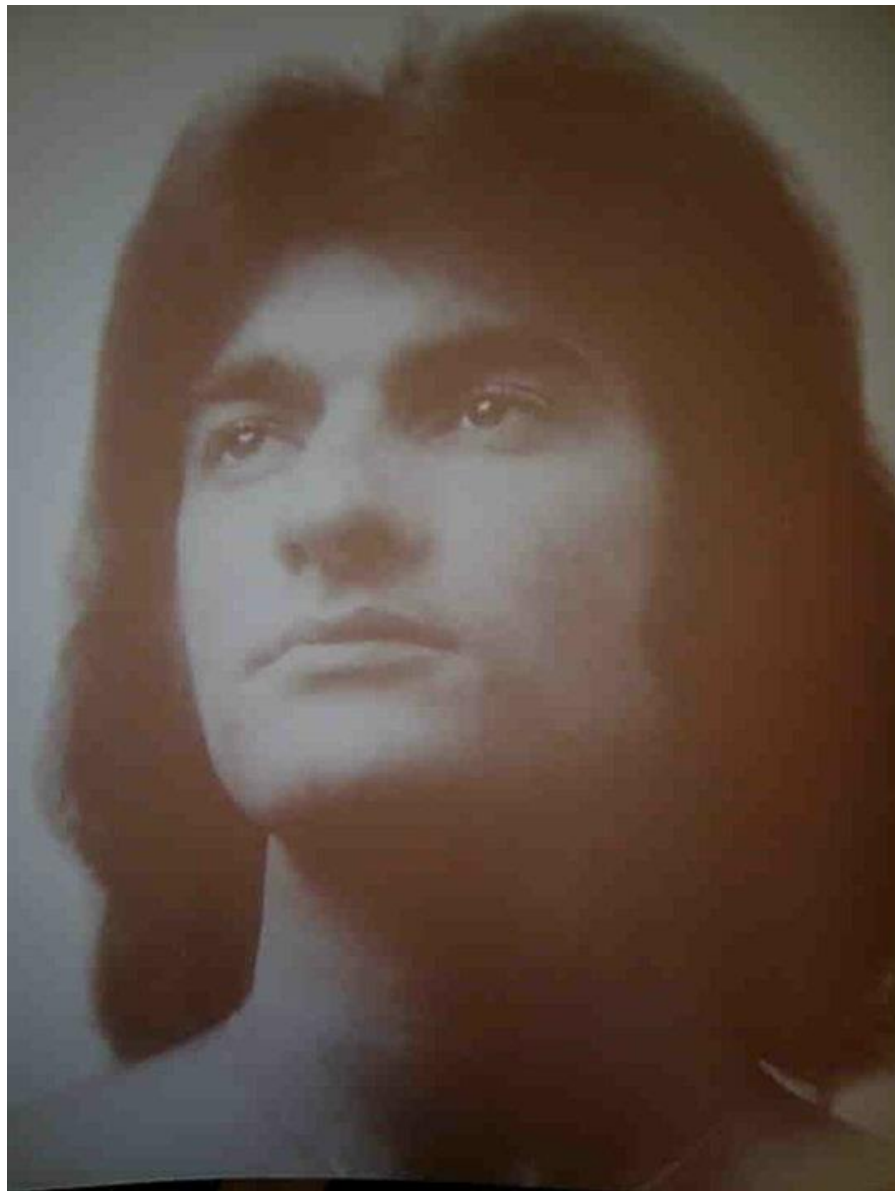
[名作マンガを読みなおそう](#)

[あなたの最高傑作は？](#)

gooブログおすすめ

[「チーン」西本願寺のゆるキャラ、おりんちゃん](#)

[富士山世界遺産に登録！「ラベンダーと富士山」](#)



僕たちメンバー間の関係はまあいろいろなエピソードはあったけれど、今は批評やお互いにアイデアを交わしたり、意見を傾聴できるよ。僕は実にビューティフルな人たちと演奏できてるよ。

今回のフェスについては、見直すべき点や改善点はまだあるね。ある程度の長さの演奏時間で、なぜこの選曲に至ったかということがわかるようなセットリストにするようなこともしないかね。この状況では、アコースティックは自分たちが求めるレベルはちょっと難しかったかな。あと、会場もっと詳細に調べて選択したほうが良かったかもしれないね。

Q: これまで遭遇したミュージシャン、人々の中で、音楽に大きな影響を与えた人は誰でしょうか。

G: 僕が音楽的に成長したのは60年から70年代だね。音楽を作るという意味ではすごく豊かな時代だったよ。あらゆるミュージシャンが輩出された時代だ。でも、ずばり、ビートルズだけかな。一番のターニングポイントだったかな。それから、ローマでニュー・トロルズはローリング・ストーンズの前座をしたんだ。当時のトロルズの曲を聞いてみると、間違いなく、つぎのバンドの影響があったことがわかるよ。ディープ・パープル、クリーム、のちにはビージーズだね。当時の僕に撮っては、あらゆる音楽と出会って、演奏や作曲に何かしらの影響をもらうことは必須だったよ。

Q: 仮に、あなたのことを知らないで、ネットにあるオフィシャルのバイオを読んでみると、ドラマーとして、モダンなアプローチを推進していることがわかります。テクニカルにはどうなんでしょうか？

G: そうだね、自分の演奏を振り返ると、すぐに僕が音楽を始めたころ、つまり60年代と70年代の間、いろいろな違いがあった。

楽器の品質や特徴によって、ニュー・トロルズのコンチェルト・グロッソではすでにダブルのバスドラを使ってた。また、バスドラの大きさも他の当時のバンドより大きかったよ。

創造性やインプロビゼーションもニュー・トロルズの音楽に確実に影響を与えていたと思う。「これが

最新記事一覧

公式Facebook

公式Twitter

ブログの新規作成

お知らせ

その料理、パシャッとささっと
ブログにしちゃお

のんびり仮想生活に、前回好評のアイテムが復活

無料で安心、写真も便利な
gooブログ♪

gooブログをさらに便利で快適に使うには？

PC初心者にも安心のブログ
教材販売中

やりたい」という気持ちが良いかれ、悪しかれ、若気の至りもあったけれど、情熱が不完全さをカバーしてたと思うな。

今日実は数時間楽器の研究をしてたんだ。どの要素が曲のパフォーマンスをより向上させてくれるかということを検討してたんだ。セッティングだけでなく、どの楽器を選択するかが求める音を出すには重要なんだ。ニュー・トロルズUTは何事も、成り行きまかせにはしない。でも、創造性とインプロビゼーションの余地は残してあるよ。これはUTの音楽が生き物だという証明だね。

Q: まだ未完成の「ジャンニ・ベレーノが考察する70年代から今日までの音楽ビジネスの変遷」はどのような内容ですか。否定的な面と肯定的な面のバランスがうまくとれているのが好きなのですが。

G: 音楽ビジネスは常に新風を吹き込まないといけないということをわかってるんだ。僕が音楽を始めたころは音楽は若い人向けだった。今は何千人規模を巻き込むことが普通だし、音楽業界も利益を追求することを理解して、昔よりも一歩踏み込んでよ。

ひとつだけ、少し変化した部分がある。利益追求するということだ。でも、根本的な違いは、すべてのペースがおびただしく早くなったこと。僕が始めた昔はプロデューサーがタレントを発掘し、育てていった。

たまに、見込みがはずれることもあるよ。でも、今から20年後のことを考えると、アーティストはすぐにインパクトを与え、即利益をもたらせないとダメだね。



昔はいろいろな音楽をやっても、あまりマネジメントが牛耳っていなかったような気がする。今では才能がなければ、数か月後に忘れられてしまう。プログレの復活はすごく元気づけられる。ニッチ・マーケットだからね。もし、プログレをすとなるとね。ちょっとプログレのビジネス面を語るのはまだ時期尚早だと思う。営業成績や利益のことで追い立てられないから、僕たちミュージシャンが落ち着いたで演奏できるのかなという気がする。

Q: 音楽をするにあたって、友情とはどれくらい重要ですか。過去では重要だったかと思いますが。

G: 音楽を介しての友情はそのまま影響するよ。ある日は良かったのに、だめになってしまうことがある。でもそれは心からの友情ではないよ。それで自分が成長したとしても、苦い思い出になってしまうよ。日常生活の中で友情を探すほうが簡単だと思うよ。特に長続きするような友情はね。単純な友情、電話したり、一緒にビールを飲んだりっていうのは、お互いがあることだろう。人間には食糧、安全、他人への信頼が不可欠なんだ。信頼おけて、一緒にいて楽しい人で裏切らない人。こういう人とはいつも個人の利益関係なしにつきあえるよ。

Q: 過去に用心のために、やらなかったが後悔した音楽のチャンスはありましたか。

G: むしろ逆だね。自分を守るために、もう何でもしてきた。何ひとつ、落とさないようにしてきたよ。何でもやってきた。良かれ、悪しかれ。結果として、自分の音楽の進化と、人間としての訓練になったよ。UTとして、プログレを続ける話が合った時もノーとは言わなかったよ。なぜって、目指す方向が同じだからよ。僕の人生と仕事のベクトルと同じだったんだ。

Q: あなたにとってライブはどのような意味がありますか。そのときの自分の表情を決定するようなポイントは何かですか。

G: ライブはいつでも、終わりのない感情の発見なんだ。自分と観客がいて、お互いのために演奏する。音楽のみならず、表情やジェスチャーの交換なんだ。音楽が自分の手や声から生命をもって放たれる。終わりのない旅なんだ。3時間のショウのあとでも、すぐくむずかしいドラミングをしたあとでもそう思うよ。人工的なものは何も無い。

どんなエラーや、不完全な部分があっても、それはゲームの一部だし、人生の一部なんだ。

たまに、どのショウも、自分の音楽への愛情の証明と、観客への愛情を示す場だと思うんだ。僕はいつもベストを尽くし、そこにきてくれた方にお返しをする。そして、聞いて、喜んでくれることを祈る。同時に、期待に添わないと、批判されるということもわかっている。

Q: ニュー・トロルズはイタリアのロック・シーンに君臨していますが、才能は実際の音楽制作にどの程度重要かと思えますか。

GB: 才能は疑いの余地はなく不可欠だよ。どんな議論があっても、才能があれば、先に進めるんだ。若い時の不完全さは最初だけだよ。

ニュー・トロルズが成功した理由は、僕たちが周りを見渡すことができる能力があったからだと思う。僕たちはそれぞれの基本的なキャラ、独特のコーラス、これはおそらくこれまでのイタリア音楽でも比類ないものだと思うよ。またロック、プログレ、ディスコなど多様性があるってことだと思う。他のアーティストとのコラボレーションによって、音楽性も豊かになり、経験も増していった。ニュー・トロルズは紛れもなく、その特徴がユニークだと思う。ニュー・トロルズに影響を受けたバンドは多いと思う。なんかコーラスがトロール風味だったり、ギターの弾き方がニコに似てたり、ドラムも似たような演奏方法かもしれない。これまでニュー・トロルズが歩んできた道は、険しかったかもしれないが、多くの人の記憶に残ってるってことだ。

Q: 自叙伝で信仰心について語っていらっしゃいます。プライベートは尊重しますが、この信仰により、音楽への影響がありましたか。

GB: 二言三言ではちょっと説明するのは難しいね。僕の意識の中の問題だからね。信仰心の芽生えっていうのは、日々あらゆる選択をする際に、その方向を導いてくれるガイドラインのようなものかな。選択はいつも簡単とは限らない。難しいなら、もっとより大きなもの、たとえば、いつも自分の中に流れているもの、しかも、永遠に不滅なもの。信仰に目覚めた瞬間に、この大きな力が自分に不可欠だとわかったんだ。未知の世界への扉を開けてくれ、もし、信仰を知らなかったら、決してやらなかったであろうこともあった。だから、僕は信仰を受け止め、自分の中でより深めていこうとおもったんだ。

信仰に目覚めたきっかけは、もうアルバムを何枚売ったとか、何回コンサートをやったとか、はもうどうでもよくなっていた頃だった。日々の生活は何も変わらない。生活して、演奏して、過ちを犯し、喜び、そして苦しむ。でも、すべてが新しい光の元にあるんだ。それで意味がある。信仰の第一段階はまずそれを受け入れること、より良い方向に導いてくれる愛を信じること。

Q: で、現在ですが、音楽でこれから3年以内に目指すことは何かですか。

曲を作り、演奏して、話しまくるよ。僕の話は、すごい価値があるんだ。結局、才能がちゃんと花開くようにするというのが結論だよ。自分の才能を信じずに、どこかに才能を埋没させないようにはどうするかってことだ。

僕はいつも仕事の大小にかかわらず、全力の情熱を込めて、常に改善・改革を考えてきた。これは仕事もそうだけど、プライベートもそうだね。

UTのプロジェクトは時に僕は全力投球しないといけない。でも、うまく成功させるためには、僕は自分の意識、能力をすべてつぎ込みたいんだ。基本的に音楽というのは、いつもベストであること。これは自分の能力にベストであるだけでなく、望む商業的なチャンネルならば、なおさらベストでやること。絵画や作家なども、毎日やっている、芸術になってくるんだ。僕は音楽をずっと続けるよ。どこの道を見ても、僕は歩き続けていることだろうよ。

UTのオフィシャルサイトにバイオグラフィーが掲載されています : <http://www.utunotempore.com/>

<ジャンニ・ベレーノ バイオグラフィー>

幼少のころからドラム演奏を始める。出身地ジェノバの地下室で多数のバンドのリハーサルに参加。イタリアでドラムにモダンなアプローチで臨んだ最初のドラマーでもある。具体的な方法論と60年代後半から70年代初期の偉大なドラマーから影響を受ける。

New Trolls Gianni Belleno drum solo on Il Sole Nascer醇A Cantagiuro 1971

1966年にはニュー・トロルズの立ち上げに参加。この後長年に渡りバンドの解散、離散にもかかわらず、バンドの要となる。

New Trolls UTでは、Nico, Gianni, Franz, Maurizioとラインアップを作っています。UTではNew Trollsではバンドの基礎ともなるConcerto Grossoの曲を中心に演奏。

他のアーティストへの楽曲提供も積極的に行っている。

2009年には息子とともにキリスト教音楽にも活躍の場を設けている。

2011年からはニュー・トロルズUTの牽引力として、バンドをリードしている。

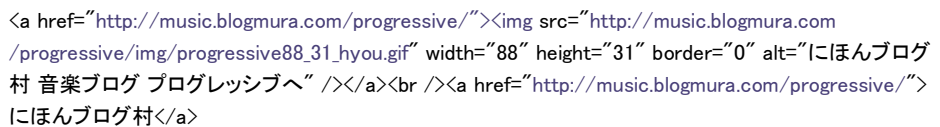
NEW TROLLS - assolo di Gianni Belleno

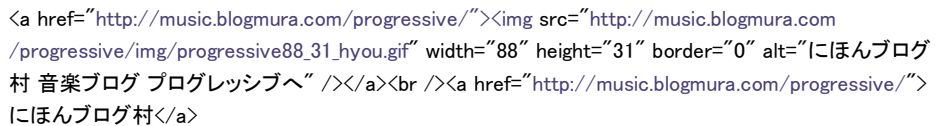
貴重なニュー・トロールズ時代のRAIテレビ出演の様子です。時代を感じます。

<http://www.rai.tv/dl/RaiTV/programmi/media/ContentItem-9324d87c-6069-47e5-ae6-fa1e16942277.html>

インタビュアー Athos Enrile: 多数のプログレ・ミュージシャンとのインタビューを行い、ブログに記事を掲載している。

URL: <http://athosenrile.blogspot.com/>



<http://music.blogmura.com/progressive/>
 にほんブログ村 音楽ブログ プログレッシブへ

<http://music.blogmura.com/progressive/>
 にほんブログ村 音楽ブログ プログレッシブへ

ジャンル: [音楽](#)

キーワード: [バイオグラフィー](#) [プログレッシブ](#) [未知の世界](#) [レーション](#) [キリスト教音楽](#)

Comments (3) | [Trackback \(0\)](#) | 

 2 |  チェック | ツイート 12 |  いいね! 45

« [Locanda Delle Fate「妖精」 ...](#) | [TOP](#) | [ニュー・トロールズ変遷の歴史~...](#) »

3 comments

コメント日が 古い順 | [新しい順](#)

Unknown (Unknown)
2012-03-12 01:10:24
Tanks Kase...

Is that Athos? (Sakura)

2012-03-12 01:59:42

It must be Athos! Thanks for letting me use your article. Grazie!!!

Unknown (カンカン)

2012-04-01 19:13:07

日本語で読めて感謝しています。Nico、Vittorioだけでなく、New TrollsはBeatlesのようにみんな凄い人たちだったことがよくわかりました。これからも、日本語でイタリアのプログレの紹介をお願いいたします。

post a comment

ブログ作成者から承認されるまでコメントは反映されません。

名前

タイトル

URL

※名前とURLを記憶する

コメント

▼ 絵文字を表示

コメント利用規約に同意の上コメント投稿を行ってください。



数字4桁を入力し、投稿ボタンを押してください。

コメントを投稿する

trackback

Trackback Ping-URL

<http://blog.goo.ne.jp/tbinterface/6ee1cac5540e9021690fcc3c98e432f4/e9>

送信元の記事内容が半角英数だけのトラックバックは受け取らないよう設定されております。
※ブログ管理者のみ、編集画面で設定の変更が可能です。

related topics

recent entries | [プログレッシブ・ロック](#)

[Castle Fusion キャッスル・フュージョン](#)

[実験的前...](#)

[Facebookページを始めました。](#)

[Oxhuitza \(オシユイツァ\) イタリア2013年](#)

[期待の若...](#)

[Elisa Montaldo - Elisa's World エリーザの世界](#)

[70年代のイタリアン・プログレと政治思想](#)
[_2.](#)

[Bernardo Lanzetti ベルナルド・ランゼッ](#)
[ティ〜40...](#)

[70年代のイタリアン・プログレと政治思想](#)
[_1.](#)

[Locanda Delle Fate/Luciano Boero 半生](#)
[記「僕のギタ...](#)

[Anna Portalupi - UTに参加しました 世](#)
[界一美しいベ...](#)

[UT-New trolls メンバーリスト 更新と紹](#)
[介](#)

[Entry List](#) | [Follower List](#) | [Photochannel List](#)

◀ [Locanda Delle Fate「妖精」...](#)

[ニュー・トロルズ変遷の歴史〜...](#) ▶